

国 語 問 題 紙

2025 年 2 月 8 日

10:20～11:20 (60分)

答案作成上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙の中を見てはいけません。
2. 国語の問題紙は **国語 1** から **国語 11** までの11頁です。
3. 解答用紙は、記述解答用の **国語解答 1** とマーク解答用の**解答シート**の2種類です。
4. 監督者の指示にしたがって、**解答シート**には受験番号、氏名を記入するとともに、受験番号をマークし、さらに受験科目欄に国語と記入した上で**科目コードの国語**に対応するコード**①**にマークすること（裏表紙の例示を参照のこと）。
5. 試験開始後、監督者の指示にしたがって、記述解答用紙 **国語解答 1** には受験番号と氏名のシールを貼付すること。
6. 問題紙・解答用紙に印刷の不鮮明なところなどがあった場合には、監督者に申し出ること。
7. 【記述解答】の表示がされている問いについては、**国語解答 1** の指定の箇所に解答すること。
8. 記述解答では、句読点や（ ），記号も一字として数える。
9. 問題文中または文末等に、☐ の表示がされている問いについては、**解答シート**に解答すること。
☐ 中の数字が**解答シート**の解答列番号に対応しているので、例えば **①** と表示のある問いに対して**10**と解答する場合には、解答列1の**⑩**にマークすること。
10. **解答シート** 解答上の注意事項
 - (1) 解答は、必ず鉛筆（F，HB）を使用すること。
 - (2) シートは汚したり、折り曲げたりしないこと。
 - (3) 一つの解答列に二つ以上マークしないこと。
 - (4) マークが正確にされていない場合には採点されないことがあります。
 - (5) 訂正するときは、プラスチック製の消しゴムを用いて消し残りのないように消し、消し屑を残さないこと。
11. 試験時間終了まで退室してはいけません。

問題一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(配点 50)

人間にとって、「美しくなりたい」という願望が——もちろん過剰すぎれば病的であるとはいえ——自然なものであるように、「強くなりたい」という願望もまた自然なものであるように思われる。

(中略)

そのために、われわれはさまざまな努力をする。アスリートであれば、トレーニング、食事制限などであるし、効率的に強化された身体をつくるためにサプリメントを飲むこともあるだろう。しかし、自分がやることは他人もやるのであって、なんとか他人よりも先んじようとし、それが行き着くところまで行き着いたとき、「ドーピング」の手前までくる。

(中略)

ドーピングの反倫理性については、(i)ドーピングをする人の健康被害を考慮してやめるべきであるというパターンリズム的主張、(ii)アスリート全体の競技者人生が短くなり、かえってその業界のレベルが落ちてしまったたりするといった帰結主義的主張、(iii)その選手の資産状況や所属する国によって効果的で安全なものを使えるアスリートと、そうでないアスリートとの差が生じるので、競争の公平性が担保できない、という競技的観点からの主張、などがあるだろう。

もちろん、これらについてドーピング規制反対派(ドーピング推奨派)からの反論もあるわけで、そうした議論は、「アスリートの自己責任か、それとも、社会的見地からの良識か」といった、対立的な論争となりがちである。しかし、そうした究極の二択という物事の捉え方だけでは見過ごされがちな問題がここにはある。それをとらえるために、一度、そうした政治的スタンスは

a

して、まずは、「良い競技とはどのようなものか」ということについて考えてみよう。

「競技」とはそもそもなんであるのだろうか。日本語では「技を競う」と書いているので、その素晴らしいテクニクを観賞するように考えられがちであるが、それならばドーピングを使った超人的な動きやテクニクなどをみてもよいはずである。しかし、競技とは単に技術や結果だけをみるのではない。体力や知力、駆け引きといったそれまでその競技者が培^{(ア)ち}ってきたものすべてをみるのであるし、そもそもが「一人」ではなく、競い合っている競技者たちの競い方をもみるものである。

英語の競争(コンペティション)は、元々は、ラテン語の「共に求める(competo)」に由来する。つまり、競技者たちが共に

同じもの（勝利）を求めるという公共的な営みに参画しているのである。個々で何かを求めるならば、自分の家の庭で世界記録でもなんでもだせばよいが、競技においては、公共の場で記録や勝利を、共に追い求めているわけである。この「共に (com)」というのは、「仲間」「会社」を意味する「カンパニー (company)」でも使用されるように、同じ b にいながら——ときに違うことをしながらも——参加者みんながその場の一員となつていくという状態である。すると、そこに相応しくない振舞いをする人はその一員とはなりえないわけで、他の競技者に対して悪質な妨害は禁止されるべきであるし、暴力でライバルを排除するなどはもつてのほかである。そこは或る意味では競技者たちにとっての公共的な場なのである。

アスリートたちが集うそうした場においては、ある国家が無理やりある選手をドーピング漬けにしたり、「勝たなければ家族ともども死刑だ」と脅すような参加の仕方はそぐわない。また、参加者たちが「或る程度は環境の差があつても仕方ないけど、この薬物を使うのはなしにしようね」といったコンセンサスを共有しているのに、それを無視したり、欺くような形でその薬物を使用することも公共的な参画にはそぐわない。もちろん、そうしたコンセンサスに対して、競技者コミュニティの一員として異議申し立てや変更を求める権利はあるにしても、「薬物を使うかどうかは個々の競技選手の自由でしょ」とか「観ている側がもつと面白くなるんだから」という理由を振りかざしながら、競技者たちの公共の場にいろいろ自由に持ち込んでよいものではない。

「よい競技」とは、その観客や関係者が楽しめることは X 的なものとしては望ましいが、そこにいる競技者がきちんと競技をすることが前提であつて、競技者コミュニティにとっての「善」「公平」をぬきにしてそれが成立することなどはありえない。

しかし、過熱した商業主義は、「観客やスポンサーもそれを望んでいるんだから」とばかりに、競技者たちが中心であるべき競技者コミュニティの場にいろいろ持ち込もうとする。放映時間に合わせた競技開始時刻を求めたり、なかにはルール変更すらも求めたりもする。そうした商業主義の過熱のもと、^(三) 広告 Y となつて期待をかけられた選手は、お金のために「なにがなんでも」勝たなければならぬと、競技者コミュニティの一員であることを忘れがちな振舞いをすることもある。同様に、国威発揚のために期待をかけられ、国家の一員として勝利を目指さざるをえないアスリートも競技者コミュニティの「仲間」であることを忘れがちになる。つまり、商業主義であれ国家主義であれ、それが侵入しすぎた競技というものは、参加者同士の連帯を断ち切らせ、競技者たちにとっての公共空間を破壊してしまう。

そうした商業主義や国家主義からのプレッシャーについて、いかに多くの人が無頓着^{むとんちゃく}に肯定し、そのツケを選手に押し付けていることだろうか。「スポンサーからお金もらってるんだから、選手は結果をだす義務があるでしょ」とか「税金で支援された国の代表なんだから、へらへらしてんじゃないよ」とばかりに負けた選手をSNSで叩く風潮^{かぜうしほ}が一般的になると、ただでさえギリギリまで自らを追い込んでいる選手のメンタルはますます追いつめられるだろう。なかには怪我をするくらいまで追い込む人もいるだろう。この延長線上でドーピングに手をだす人もある意味ではその被害者といえる。

そうした被害者に対し、商業主義的な、あるいは国家主義的なプレッシャーを押し付けていた側の人たちが「それは自己責任でしょ！ バカだね」というのは、あまりにもひどくはないだろうか。競技者それ自体をリスペクトすることを忘れ、単なる経済人のように「お金をもらうなら成果をだせ」とばかりにプレッシャーをかけて追いつめておいて、何かが起こったら「それは自己責任でしょ」というのはあまりにも倫理に反するし、^(四)そうした言説自体が、アスリートと非アスリートが共存するこの社会において非公共的なものといえる。その延長が「ドーピング」ということもできる。

この点から、競技者団体は競技者個人を守る必要があるし、一般市民に理解を呼びかける必要があるだろう。しかし、競技者コミュニティが利益団体化してそれぞれの c 権益と結びついたりすると、それは一般市民の共感を広く得られることなく、個々の競技者たちはそうした分断の犠牲者となってしまうかねない。

ドーピング問題は個々の事例として今後も議論されてゆくべきものであるし、^(五)「競技者の自由意志や自己責任か、それとも社会一般の良識か」という論点は常に関わってくるが、その背後にある、成果主義や商業主義の侵食や競技者コミュニティの分断については、常に警戒しておく必要があるだろう。

(中村隆文『なぜあの人と分かり合えないのか』より)

(注) パターナリズム：相手の利益のためと考える保護し干渉すること。父親的温情主義。

問一 空欄 a へ c に入る表現として最も適切なものを、それぞれ次の1～4の中から一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|-------|---|-------|
| a | 1 | 留保 | 2 | 枚挙 | 3 | 逸脱 | 4 | 僭越 |
| b | 1 | アジェンダ | 2 | マインド | 3 | フィールド | 4 | クラスター |
| c | 1 | 潜在 | 2 | 在来 | 3 | 巨万 | 4 | 既得 |

- a ①
b ②
c ③

問二 二重傍線部(ア)「培う」、(イ)「風潮」の辞書的意味として最も適切なものを、それぞれ次の1～4の中から一つずつ選びなさい。

- (ア)
- 1 集中して感覚を鋭敏にすること
 - 2 積み重ねられた経験から判断すること
 - 3 時間をかけて養い育てること
 - 4 周囲に働きかけて場を整えること
- (イ)
- 1 時代や世間の傾向のこと
 - 2 人々の感情的な反応のこと
 - 3 次々と変化が起ること
 - 4 根拠の不明確なうわさのこと

- (ア) ④
(イ) ⑤

問三 傍線部(一)「良い競技とはどのようなものか」に関して、本文の内容に照らして最も適切なものを、次の1～4の中から一つ

つ選びなさい。

⑥

- 1 各地域に競技者コミュニティの団体が作られ、手厚いサポートを受けられることが望ましい。
- 2 競技だけでなく競技者コミュニティとしての魅力が注目を集め、多くの観客から応援される環境が望ましい。
- 3 競技者の社会的地位が高まり、国や地域で名誉を得たり高い地位に付いたりすることが望ましい。
- 4 競技者コミュニティ自身による価値判断やフェアな競技環境が守られ、尊重されることが望ましい。

問四

傍線部(二)について、日本語の「競技」という語と比べた場合に、英語の「コンペティション」という語にしか含まれていない意味の要素は何か。筆者の説明に照らして最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

⑦

1 選手らの公共の場が作られているという要素

2 選手が能力や技術を競い合うという要素

3 選手と観客が集まって熱狂するという要素

4 選手が自分の技術の向上を追求するという要素

問五

筆者の主張をふまえて、空欄 に入る表現として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

⑧

1 双方向 2 付随 3 二元 4 熱狂 5 先鋭

問六

傍線部(三)は「団体や組織の宣伝のために使われる有名人」という意味の比喩的な表現である。空欄 に入る適切な漢字一字を解答欄に記入しなさい。【記述解答】

問七

傍線部(四)「そうした言説自体が、アスリートと非アスリートが共存するこの社会において非公共的なものといえる」とあるが、なぜか。本文の内容に照らして最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

⑨

1 お金をもらうなら成果を出せという言説は、経済的な利益ばかりを追求するもので、多様な人々が共存する社会を守るための福祉の観点を欠いているから。

2 観客やスポンサーが望む形で競技を行おうという言説は、結果として選手の競技環境を悪化させることがあり、アスリートの社会と非アスリートの社会が対等でなくなっているから。

3 選手は自己責任で競技環境を構築すべきという言説は、競技の難しさやトレーニングの厳しさを知らない人の意見にしか過ぎず、アスリートを深く傷つけているから。

4 成果を強く要求しながら問題が起きたら選手のせいにするような言説は、競技者たちも同じ社会の一員であるということを考えず、競技者以外の都合や利益ばかり見ているから。

問八

傍線部(五)「競技者の自由意志や自己責任か、それとも社会一般の良識か」という論点」とあるが、このような二者択一の論点を取ると問題の本質が見えないのはなぜか。次の空欄 I に入る形で二十五字以上三十字以内でまとめ、解答欄に記入しなさい。ただし、解答には必ず「プレッシャー」「被害者」という語を含めること。【記述解答】

アスリートは I でもあるという点を見逃しているから。

問九

成果主義や商業主義・国家主義が競技の世界への影響を強めすぎると、どのような問題が起きると筆者は述べているか。次の空欄 II に入る適切な表現を三十字以上四十字以内で本文中から抜き出し、最初と最後の五字をそれぞれ解答欄に記入しなさい。【記述解答】

II という問題。

問題二

次の文章は、イギリスの作家H・G・ウェルズが一八九五年に発表した小説『タイム・マシン』について述べたものである。読んで、後の問に答えなさい。(配点 50)

『タイム・マシン』は、時の文化状況と密接につながりあっている。作品には、そのつどの時代意識が滲み出ることだ。けれども、『タイム・マシン』を背後で支える時代の意識と感覚は、現代からは遠く隔たっている。

ア、百年以上前の作品を掲げて、現在の時代意識との共鳴を云々するのは、いきなりすぎるだろう。実のところ、同じことはこれから取り上げる多くの作品にもあてはまる。本書で現代の意識状況と言うときに、念頭においてるのは、だいたい一九八〇年代以降の文化の空気である。けれども、本書で取り上げる作品は、圧倒的に前世紀の、イ八〇年代以前のもののものだ。だとすれば、この隔たりを超えて、時間SFが現代文化の意識と通じあうというのは、奇妙なことにも思えてくる。ところがあにはからんや。実は両者は、意外なパイパスを通じてつながっている。

時間SFは、タイム・トラヴェルをはじめとする特異な設定をとりながら、しばしば奇異な時間世界を構成する。いきおいそこには、この突飛な構成を説明し、整理しようとする独特な理解も登場することになる。実はここにこそ、現在の時代感覚とつながるポイントがある。そこでは、ある特定の時代状況や具体的な歴史の推移ではなく、時間一般のとらえ方や、時間なるもののあり方が語り出されていく。つまりそれは、時代的特殊事情から切断された、普遍的な装いをとったテキストだと言っていい。こうした思弁的とも言えるテキストに関しては、異なる時代を生きる者が、時代の特殊性を超えて、何か身につまされる感覚を抱いても不思議ではないだろう。そう、いま現在の時代的な感覚に浸された者でさえも。

時間について普遍的に語るテキストは、もちろん『タイム・マシン』にも組み込まれている。主人公が友人たちにレクチャーする、あの理解だ。^(注)トラヴェラーは、これは常識だと言わんばかりの調子で、実在する物体は「四つの次元で広がりをもっている」と語り出す。要するに物体の存在は、縦、横、高さ、そして持続時間という四つの次元からなるという主張だ。そして、自ら「四次元幾何学」を研究した成果を披露する。「第四次元というものは、時間を別の角度から見たものにすぎないんだ」「科学者は、時間が空間の一種でしかないということを、十分心得ている」。だからこそ、空間を移動するのとはほぼ同じように、時間という次元を自由に動き回れても不思議はない。はい、^(注)QED。

この四次元的世界像は、ウェルズが語り出したあと、いくつもの作品に引き継がれた。その出自と^(一) X 意についてはあとで詳述するけれど、この理解のいちばんの特徴は、時間^(三)をある意味で空間の一次元ととらえる点にある。物事が変動するさいの時間の持続を、過去から未来に延々とつながる軸と想定し、それを三次元の空間世界に加えられるもう一つの次元ととらえる。すると、何らかの物や出来事は、この四次元座標のどこかにプロットできるというアイデア^(四)。この初めも終わりもわからない芋虫のよ^(五)うな連なりは、比喩的にある種の空間的な広がりだと解釈できる。

しかし、タイム・トラヴェルをこうした空間のなかの移動ととらえるとき、その帰結として世界についての理解は驚くべきものになる。タイム・トラヴェルとは、四次元空間のどこかに存在する地点へのジャンプと見なされる。だとすれば、行き先となる過去や未来は、この広がり^(六)のどこかに存在すると言えるのではないか。過去も未来も、延々と続く氷河の回廊のうちに、常にすでに存続している！

往々にして四次元世界論は、この凍り付いたような時間の連なりを想定する。それは、ある種の決定論的な世界像だとも言えるだろう。過去と同じように未来も、常にすでに確固たる形で存在すると想定されているのだから。実際ウェルズは、この世界像が、遥か彼方に存在する未来を「透視」するためのしつらえだったことを明かしている。「当時は、進化とは事態をますますよい状態にしていくもので、人間に資する力だという想定があった。確固たる四次元空間という時間の枠組みは、こうした平穏な考えに背馳する未来を垣間見るための手品のトリックになっている」

トラヴェラーは、地球の陰惨な未来をじかに見た。けれどもそれは、延々と広がる時間の彼方に、常にすでに存在する現実にはかならない。だとすれば、人間はこの破滅的未来を予定されたものとして生きなければならないことになる。そのとき時間世界は、分厚い氷河のうちに人間を閉じ込め、拘束する。このことは、未来の現実を知らされたときの友人の印象にはつきりと表れている。「彼（トラヴェラー）は（略）文明の蓄積は愚かな建造物にすぎず、いつかは崩壊してその建造者を退廃させずにはおか^(七)ないものだと言っていた。もしそうなら、僕らはそれに気づかないふりをして生きてゆくよりほかにない」

こうした理解の背景には、のちに見るように、当時の数学に登場した四次元空間論があり、過去の時代とのつながりを色濃く示してもいる。けれども、それが物語のうちで普遍的な考えとして打ち出されるときには、時代を超えた感覚の共鳴をもたらしても不思議ではないだろう。現代の閉塞感、あるいは超越的な力の檻に閉じ込められているような無力感。こうした時代の感覚は、一

世紀以上も前の物語とも共鳴しうるのだ。時間SFに登場する時間世界の理解と構成は、比喩的な読み取りを通じて、いま現在の時代的感覚を呼び寄せる。

実のところ、ウエルズ自身の世界観は、必ずしも決定論で割り切れるものではない。すでに紹介したように、彼は自然との緊張のなかで文明がどんな選択をするかが鍵となると考えていた。だから、『タイム・マシン』が導入した四次元世界は、人々に決定論を突き付けながら、それへの反発を通じて文明の選択に向けさせる「手品のトリック」なのだろう。けれども、いま現在を生きる私たちは、ウエルズ自身の文脈とはやや異なる関心にもとづきながら、現在の時代的な感覚と通じあうものを感じ取る。普遍的な言説の形をとった時間論は、異なる時代状況のもとで、ある種の読み直しを通じて、時代感覚に引き寄せて意味づけられるということだろう。あるいは、いま現在の文化の空気が、時間SFの意匠と⁽⁷⁾ X 意を再発見すると言ってもいい。そこには、レトロな時代意識をも、いま現在の文化的配置のなかにのみ込んでしまうポストモダンの空気も作用している。

もちろん、現代の感覚と通じあうポイントは、決定論的な世界像だけではない。むしろ時間SFは、互いに拮抗しあう多様な感覚を引き寄せる。その意味では、時間SFは「ウ」だと言っても、決しておおげさではないと思う。

決定論への絶望があるかと思えば、そこに魂の救済を見いだそうとする求めが交錯し、さらには無数の可能世界を夢見る願望や、時間の終焉を待ち望むような思いも拮抗する。時間SFは、こうした多様な意識の錯綜を映し出す。だから、この時間をめぐる意識の衝突や軋みには、なかなか複雑なものがある。けれどもだからこそ、このジャンルはただおもしろいだけでなく、奥が深いとも言えるのだ。

(浅見克彦『時間SFの文法』から)

(注) トラヴェラー……『タイム・マシン』の登場人物。自作のタイムマシンで時間旅行をしてきたと語る。

(注) QED……「証明終わり」を意味するラテン語「Quod Erat Demonstrandum」の略。

(注) プロットできる……ここでは「位置づけられる」「定位できる」という意味。

問一 空欄 ア イ に当てはまる語として最も適切なものを、それぞれ次の1～5の中から一つずつ選びなさい。

- 1 しかも 2 つまり 3 たとえば 4 さすがに 5 あるいは

ア ⑩ イ ⑪

問二 傍線部(一)「意外なバイパス」の詳しい内容を次のようにまとめた。空欄 A B に当てはまる表現を本文中

から抜き出し、それぞれ解答欄に記入しなさい。なお、空欄 A は六字以上八字以内、空欄 B は十字以上十二字以内とする。【記述解答】

時間SFの A を整理・説明する際にあらわれる、 B テキスト。

問三 傍線部(二)および(七)は「表面に現れない意味」という意味の同じ単語である。空欄 X に当てはまる漢字一字を解答

欄に記入しなさい。【記述解答】

問四 傍線部(三)の説明として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

⑫

- 1 時間と空間を同一視した上で、三次元空間のいずれかの次元と重ね合わせて把握すること。
- 2 時間を空間的な広がりに関連した上で、三次元空間に追加できる次元であると把握すること。
- 3 時間を空間とは無関係の概念であると把握し、三次元空間とは別に時間の次元を打ち立てるということ。
- 4 時間と空間は一部の次元を共有することを前提に、三次元空間にもう一つの次元を追加するということ。

問五 傍線部(四)で使われている比喩の種類を漢字で解答欄に記入しなさい。【記述解答】

問六 傍線部(五)について、「驚くべき」ことの説明として不適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

⑬

- 1 時間の始まりと終わりを定めることができないこと
- 2 すべての過去と未来がすでに存在しているということ
- 3 人間は過去も未来も変えることができないということ
- 4 幸せな未来と悲惨な未来が同時に実現するということ

問七 傍線部(六)の説明として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

⑭

- 1 『タイム・マシン』で採用された決定論的な世界像は、現在よりも進化した未来は必ずよいものになるという想定を相対化するとともに、文明の選択の重要性に注目させるための創作上の演出であったということ。
- 2 『タイム・マシン』で描かれている決定論的な世界像は、現在の文明の選択の仕方によっては、未来は陰惨なものになる危険性があることを警告するための密かなメッセージであったということ。
- 3 『タイム・マシン』がトラヴェラーの目を通して読者に示す陰惨な未来の世界像は、現代の人間がどのような選択をしたとしても変更ができないことを強調して表現するための効果的な演出であったということ。
- 4 『タイム・マシン』のトラヴェラーが内心で望んでいる理想の未来像は、現在を生きる人間一人一人が未来に責任を持つことで実現可能な、現実性のある目標であることを読者に伝えるために導入された仕掛けであるということ。

問八 第一段落の二重傍線部「現代の時代意識」を具体的に説明した一文を本文中から探し、その最初の五字を解答欄に記入しなさい。【記述解答】

問九 空欄 [ウ] に当てはまる表現として最も適切なものを、次の1～4から一つ選びなさい。

⑮

- 1 レトロな時代意識が文化の変遷によって更新され続けることを描くジャンル
- 2 決定論的な時間像を前提としながら共通の未来イメージを語り合うための土台
- 3 時間をめぐる複数の解釈が衝突しあうテキストの戦場
- 4 現代的な時代意識とレトロな時代意識がせめぎ合う比喩的な論戦